

「大人」の条件

——ブール代数による社会的カテゴリーの分析——

吉田俊文

1 研究の背景と報告の目的

Youth Studies において、「大人」到達認知・イメージについて多くの研究蓄積がある (Arnett 2004)。ただし、ここでなされている量的な検討は大人到達認知に関わるいくつかの次元の重要度を検討したものであり、それぞれの因子の多元結合関係については検討がなされておらず、人びとの「大人の条件」の複雑性を十分に捉えきれてない。そこで本研究では、石田 (2007) において提案された「ブール代数 (Rihoux and Ragin 2006) による社会的カテゴリー分析」の手法を用いて、人びとのもつ「大人の条件」イメージについて検討する。

表1 プロフィールごとの大人回答%と確信度平均

就労	結婚	離家	感情	大人 回答%	確信度 平均
J	M	L	E	98.92	3.79
J	m	l	E	96.77	3.42
J	M	l	E	95.70	3.67
J	m	L	E	94.62	3.68
J	M	L	e	80.65	2.87
j	M	L	E	73.12	3.13
J	m	L	e	69.89	2.74
J	M	l	e	68.82	2.78
j	M	l	E	65.59	2.84
j	m	L	E	47.31	2.84
J	m	l	e	45.16	2.60
j	M	L	e	34.41	2.56
j	m	l	E	33.33	2.71
j	M	l	e	24.73	2.61
j	m	L	e	7.53	2.57
j	m	l	e	4.30	2.75

2 方法

2016年4月にアンケート調査を実施した。抽出方法は、都内私立大学Aに在学する大学生を対象とした有意抽出である (N=473)。ブール代数を前提とした社会調査をおこなうにあたり、「大人」の条件抽出のための主要な質問項目として、「大人」の条件となりうる4種類 (2件法) の条件を組み合わせた架空のプロフィールを提示し、それぞれ「大人」だと思うか否かを判断させるヴィネット形式の調査票を作成・提示した。具体的な条件は以下のとおりである。J: 就労【している/していない】、M: 結婚【している/していない】、L: 親と別居【している/していない】、E: 自身の感情を上手くコントロール【できる/できない】。これらの4条件の組み合わせから16パターンのプロフィールが構成される。また、16パターンの2値評価の付問として、その評価の確信度 (4件法) をたずねた。

3 結果

それぞれの条件組み合わせに対して、大人と判断した回答者の割合より、回答者全体のイメージを統合した真理表を作成し、社会的に共有される「大人の条件」イメージを析出した (表1)。

大会当日は、回答者の大人認知と社会人口学的属性との関連について発展的な分析をおこない、そこから引き出される結論について詳説する。

文献

Arnett, Jeffrey Jensen, 2004, *Emerging Adulthood: The Winding Road from Late Teens through the Twenties*, Oxford University Press.

石田淳, 2007, 「ブール代数分析による社会的カテゴリーの研究——『日本人』カテゴリー認識の分析」『ソシオロジ』52(1): 3-19.

Rihoux, Benoît and Charles C. Ragin, 2008, *Configurational Comparative Methods: Qualitative Comparative Analysis (QCA) and Related Techniques* (=2016, 石田淳・齋藤圭介監訳『質的比較分析 (QCA) と関連手法入門』晃陽書房).